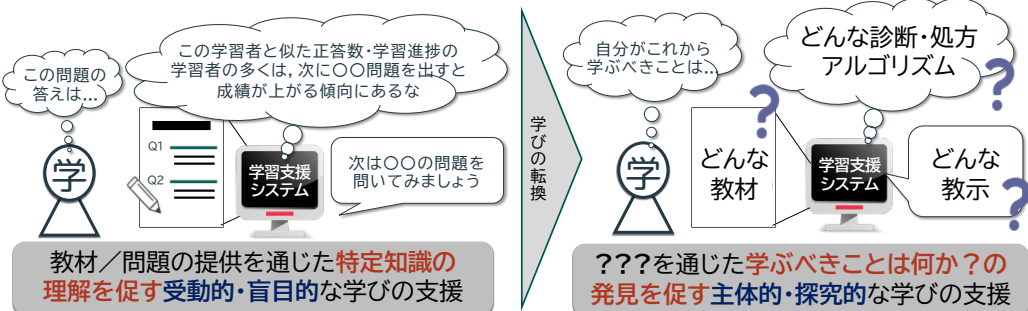


# 学習方略の経験学習支援フレームワークに関する研究



油谷 知岐 (大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 現代システム科学専攻 知識情報システム学分野 博士後期課程3年次)

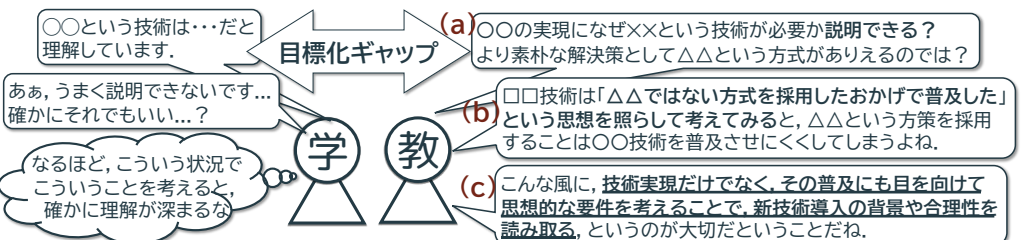
## 研究の狙い: 特定知識の学習支援 → 学び方の学習支援 の転換



## Research Question

- ① 潜在的な高次認知スキルの形成は情報システムを用いてどう支援できるか?
- ② 潜在的な高次認知スキルの学びを促す教材のあり方は?
- ③ 潜在的でデータ化が難しい学習支援の知見の積み上げ基盤はいかに形成できるか?

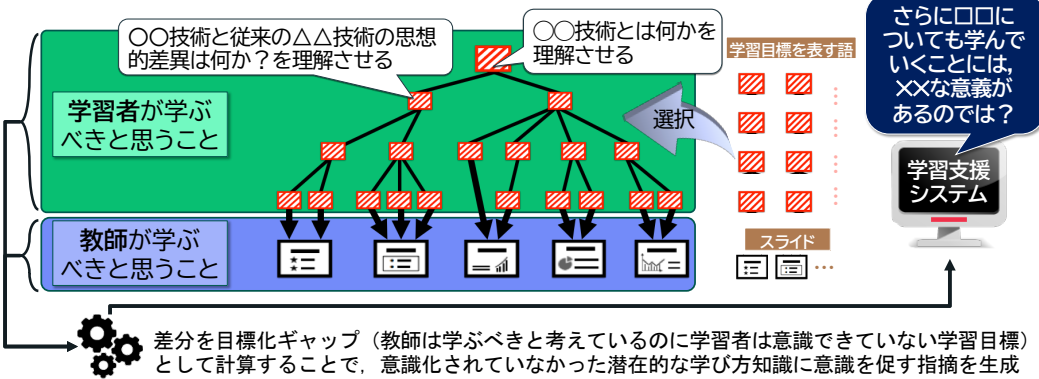
## 高次な学びを支援する学習支援法の着想 (例. セミナールでの議論)



- (a) 教師と学習者の「学ぶべきと思うこと」にギャップがあること(わかったつもり)に**気づき**を促す
- (b) なぜそのギャップを埋めるべきか(学習方略:何をなぜどのように学ぶべきか)の**思考**を促す
- (c) ギャップ(意識できていなかった学び)を埋める**意義(学習方略)の学習経験の言語化**を促す

直接的な観測が困難(潜在的)な目標化ギャップ・学習方略を捉える情報システムの仕組みが必要

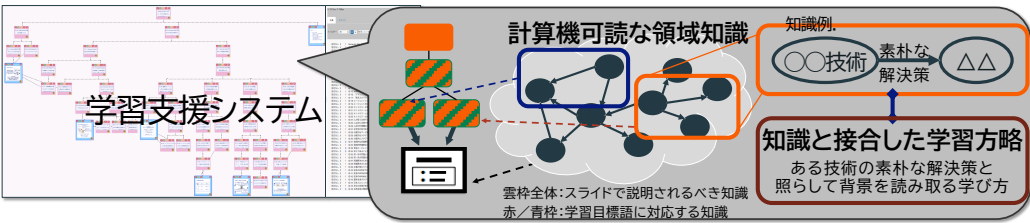
## ① 学ぶべきことそのものを考えさせる課題設定と教示



- 部品の選択により「何を学ぶべきと思うか?」を構造化させてギャップを視覚化させる課題環境
- 学習者が目標化できていなかったことの重要性(なぜ学ぶべきか)に**気づき**を促す指摘

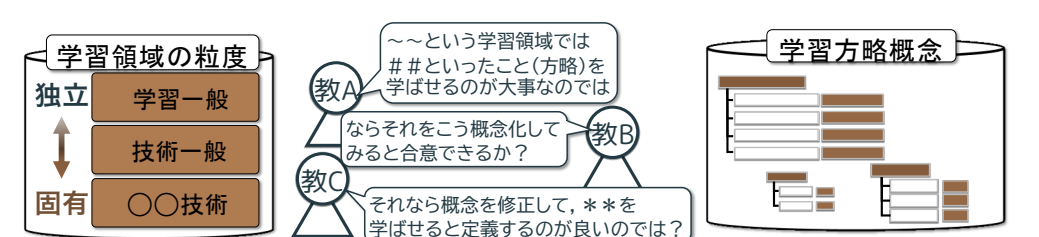
目標化ギャップの内容(何を/なぜ学ぶべきか)を処理できる情報システムの仕組みが必要

## ② 高次な学びを捉えるセマンティックスアウェアな(SA)教材



- 学習者が学ぶべきと考えることと教授者が学ぶべきと考えることの差を捉えられる教材データ (学習目標デザインが意味する情報) (スライドに記述/埋込された情報)
- その差が「どんな学習方略の学びと関連するか」を捉えられる**計算機処理可能な学習方略概念**

## ③ 領域知識 - 学習方略知識を顕在化して概念洗練できる枠組み



一般に、「何を/なぜ/どうやって学ぶべきか(学習方略)」の認識は教材作成者によって異なる → **学習方略を形式化して議論/洗練するための概念化の枠組み**